

モーツァルト室内管弦楽団

第158回定期演奏会

〈ベートーヴェン・シリーズ〉第4回

L.v. Beethoven

序曲《レオノーレ》第3番 作品72b

ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲ハ長調 作品56

交響曲 第5番 ハ短調 作品67《運命》

指揮◆門 良一

開演10分前より指揮者によるプレトーク有



【ピアノ】
三木 康子



【ヴァイオリン】
ギオルギ・バブアゼ



【チェロ】
林 裕

Ryoichi Kado &

*Yasuko Miki, George Babadze, Yutaka Hayashi
mit dem Mozart-Kammerorchester*



モーツァルト室内管弦楽団

2014.
5/31 (土)

2:00pm開演 (1:30pm開場)

いずみホール

入場料：一般 ¥5,000 (指定席) / 学生 ¥1,000 (当日限定数発売)


*小学生よりご入場いただけます。

JR環状線「大阪城公園」駅から3分、「京橋」駅から7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から5分。
有料駐車場完備

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org> 協賛◆いずみホール (一般財団法人住友生命福祉文化財団)

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 〒530-0041大阪市北区天神橋2-5-25-909 e-mail:artists@gol.com

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645 (電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188  0570-02-9999 (Pコード:226-980)
ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード:56507)

*本公演は世界の子どもの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、当日会場では募金活動なども行います。

〈ベートーヴェン・シリーズ〉第4回 いよいよ《運命》の登場！

モーツァルト、ハイドンを主要レパートリーとする門 良一／モーツァルト室内管弦楽団が年1回のペースで満を持して始めた〈ベートーヴェン・シリーズ〉も第4回を迎え、いよいよ交響曲第5番ハ短調《運命》の登場です。このクラシック音楽屈指の名曲が古典色豊かなモーツァルト室内管弦楽団によってどのように演奏されるか、興味津々たるものがあります。他のプログラムの《レオノーレ》序曲第3番、三重協奏曲はともにハ長調、《運命》のハ短調と合わせてのベートーヴェンの壮大な「ハ調路線」にご期待あれ！

モーツァルト室内管弦楽団／指揮：門 良一 *Mozart-Kammerorchester Japan / Ryoichi Kado, Dirigent*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年数年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

三木康子●ピアノ *Yasuko Miki, Piano*

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学卒業。その後、フランスに留学、文化庁派遣芸術家在外研修員として研鑽を積む。パリ・エコール・ノルマル音楽院ピアノ科Diplome、パリ・スコラ・カントルム音楽院コンサーティスト科を極めて優秀な成績で Diplome de Concert 取得。帰国後、神戸大学大学院博士後期課程研究生満了。全日本学生音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール、日演連推薦新人演奏会等入賞。ソフィア国際ピアノコンクール特別賞、ショパン・エチュード賞、ブレスト国際ピアノコンクールラヴェル部門第1位。なにわ芸術祭賞受賞。アメリカ、ヨーロッパ、中国、日本各地でのリサイタルをはじめ、オーケストラとの協演やテレビ出演、室内楽ではベルリンフィル、ウィーンフィルメンバーと共演する等、精力的な演奏活動を展開している。安川加壽子、秦 はるひ、小柳芳子、Germaine Mounier、Eugen Indjic、Henri Bardaの各氏に師事。現在、大阪教育大学、大阪芸術大学、関西学院大学、大阪樟蔭女子大学各講師。(公社)日本演奏連盟、(公財)日本ピアノ教育連盟、日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、文化庁在外研修員の会、東京藝術大学音楽学部同声会奈良支部・大阪支部、奈良県音楽芸術協会各会員。

ギオルギ・バブアゼ●ヴァイオリン *George Babadze, Violin*

グルジア国立トビリシ音楽院でシウカシュヴィリ教授に師事。在学中よりモスクワにてボロディン弦楽四重奏団のベルリンスキー氏に弦楽四重奏を学ぶ。卒業後は研究科を経て大学院に進み、指揮法をオディセイ・ディミトリアディー氏に師事。同時に88年より2年間パトゥミ市交響楽団の指揮者を務める。90年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督及び首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ演奏旅行。93年にイタリアへ渡りオーケストラのヴァイオリン奏者として諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。96年9月大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスターとして来日。98年トビリシ弦楽四重奏団を結成。01年10月関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任し、02年4月からは京都市立芸術大学非常勤講師も務める。母国においては、04年グルジアの保養地ボルジョミでの国際音楽祭に参加、グルジア国立室内合奏団を指揮し好評を得る。その後、同合奏団を率いてドイツ演奏旅行を成功させる。06年1月にはグルジア国立歌劇場の客演指揮者に就任。近年は日本でも関西フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、アマチュアオーケストラの指揮者としても活躍している。

林 裕●チェロ *Yutaka Hayashi, Violoncello*

東京芸術大学卒業。第52回日本演奏連盟新人演奏会で名古屋フィルと共演し、日本演奏連盟賞・中日賞受賞。93～96年大阪フィルハーモニー交響楽団首席奏者。第62回日本音楽コンクール第1位・黒柳賞、読売新人音楽賞受賞。94年朝比奈隆指揮・大阪フィル定期演奏会でのドヴォルザーク・チェロ協奏曲の演奏で絶賛を博す。その後、ドイツ・フライブルク音楽大学大学院を首席修了。98年A.タンスマン国際音楽コンクール・ファイナリスト、ディプロマ取得。以後、青山音楽賞、松方ホール音楽大賞、兵庫県芸術奨励賞、名古屋市民芸術祭賞、神戸市文化奨励賞、神戸灘ライオンズ音楽賞、大阪文化祭賞グランプリ、音楽クリティック・クラブ賞等受賞。林良一、堀江泰氏、三木敬之、R.フラジョ、B.ペルガメンシコフ、C.ヘンケル各氏に師事。兵庫県芸術文化センターシリーズの年間支持率No.1。CD「SOLO ist」ではシュタルケルが賛辞を寄せ、レコード芸術の特選盤となる。2013年8月7日ポッパーチェロコンクール開催。現在、相愛大学准教授、神戸女学院大学非常勤講師。いずみシンフォニエッタ大阪のメンバー。泉の森コンクール審査員。